

# SIP エネルギーキャリア

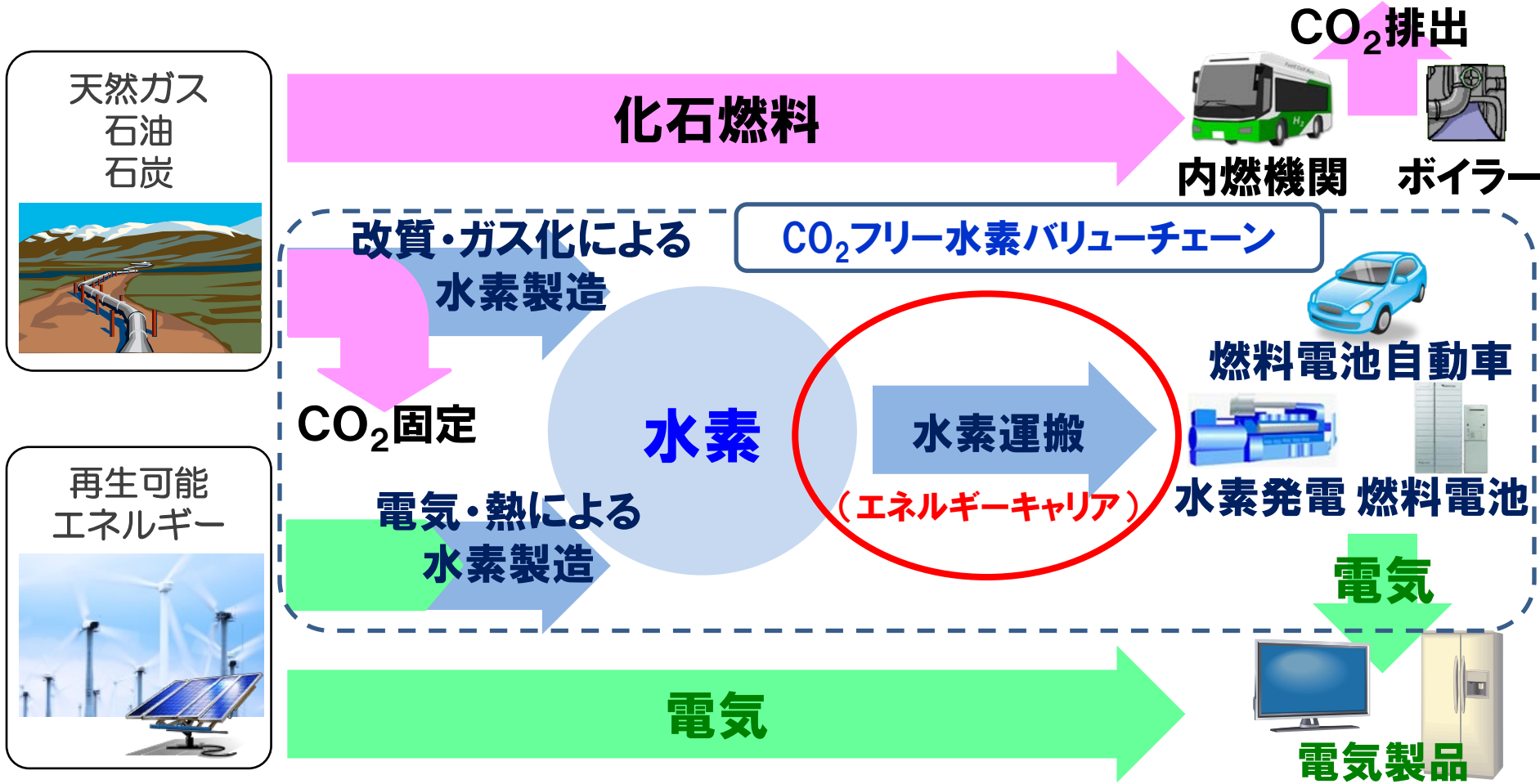
～新しいエネルギー社会の実現に向けて～

平成26年 7月17日

内閣府 プログラムディレクター

村木 茂

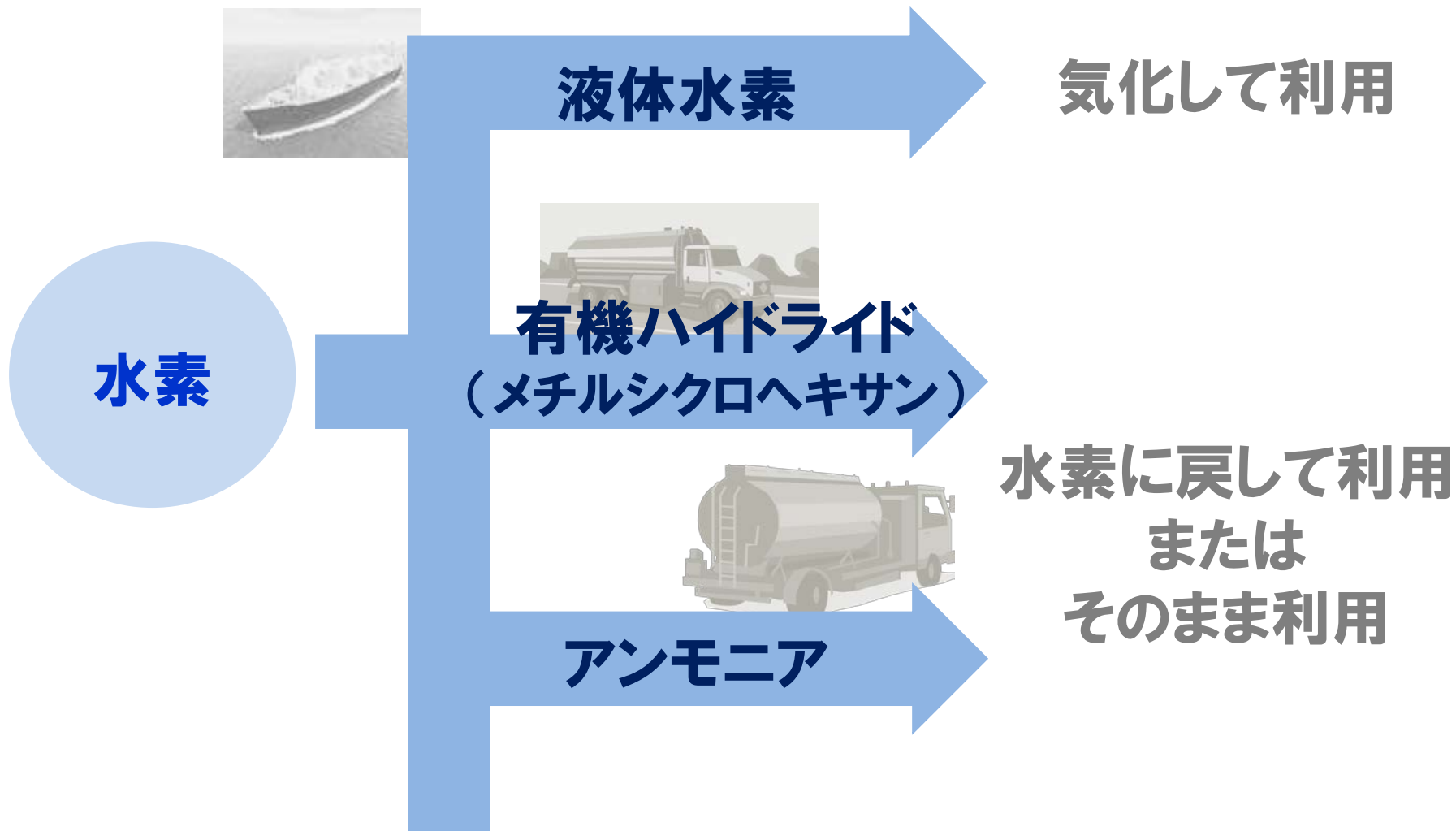
# 水素とエネルギーキャリア



- 水素は様々なエネルギー源から製造可能で、燃料にも電気にもなる。大幅なCO<sub>2</sub>排出削減が可能。
- 一方、水素は気体なので運搬・貯蔵が困難。水素を液体化して運ぶ（エネルギーキャリア）技術や、水素を効率良く安価で製造する技術が必要。

# エネルギーキャリアの例

大学における触媒等の基礎研究と、産業界における水分解等の工業技術を融合し、エネルギーキャリアの実用化を目指す。



# ビジョン

2030年までに日本が世界初の水素利用を通じた低炭素の新しいエネルギー社会を実現し、世界へ発信する。

2015-2020

- 燃料電池自動車、燃料電池コージェネの普及開始

2020-2030

- 左記の普及拡大
- 水素発電の導入

2030—

- 大規模水素発電
- CO<sub>2</sub>フリー水素の大量導入

- 安価なCO<sub>2</sub>フリー水素の製造技術、エネルギーキャリアとその利用技術の開発
- 東京オリンピック・パラリンピックでの水素タウン実証

- 水素・エネルギーキャリアによる高効率発電の実証
- より大規模な実証

- 日本の水素関連産業が世界市場で活躍

# 2020 東京オリンピック・パラリンピックでの実証イメージ

- 燃料電池バスによる選手・観客輸送、燃料電池自動車による競技支援
- 選手村・競技場へのエネルギー供給の一部を水素化

